

## 65歳問題プロジェクト会議報告

## 1. 今年度の取組内容

平成29年度自立支援協議会専門部会提言された手法について、実際に64歳になられたA様やその支援者、高齢者支援事業所に協力いただき、効果・成果の検証、課題の抽出を行った。

## ○65歳問題プロジェクト会議開催状況

	日時	場所	内容
第1回	平成30年 10月11日	芦屋市保健福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度自立支援協議会専門部会提言書と本会議の目的について説明</li> <li>A様ケースからの課題抽出</li> </ul>
第2回	平成30年 11月13日	芦屋市保健福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>A様ケースから見えた課題に対する高齢介護事業所での検討会議内容を報告</li> <li>障がい、高齢関係者双方の支援者が抱える課題について検討</li> </ul>
第3回	平成30年 12月5日	木口記念会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の課題と今後の解決法について整理</li> <li>地域発信型ネットワークにおけるPTへの移行案</li> </ul>
第4回	平成31年 3月20日	芦屋市保健福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>A様ケースの進捗共有</li> <li>今後の方向性の確認</li> </ul>

## 2. 検証結果

介護保険を申請する場合、通常65歳を迎える3ヶ月前から準備が始まるが、今回A様ケースでは1年以上前から高齢者生活支援センターに支援チームに入ってもらい、65歳以降のサービス体制について意向確認や介護保険上の事業所見学等を行った。その結果、本人・ご家族・支援者ともイメージが付き、不安軽減に一定の効果が見られた。一方で、介護保険に移行した場合に現状のサービスが減る場合に障害福祉サービスで併給をどのようにしていくかの課題もあり、行政内で検討いただいている。

この65歳問題については、障がい分野に限らず、高齢分野にも横断しているため、地域発信型ネットワークにおけるプロジェクトとして位置づけ、引き続き課題の検討や実践・協働の場としていきたい。

## 3. 今後システム実現に向けて検討していく課題

64歳支援者会議(案)	<p>目的：64歳になる移行対象者に対して、ツールを使い、今後利用可能制度を説明した上、本人の意思決定を促すため開催</p> <p>参加者：本人，家族，相談支援専門員，担当地域の高齢者生活支援センター，現在の利用事業所等</p>
研修	<p>内容：①65歳時における制度紹介</p> <p>②事例紹介</p> <p>参加者：高齢者生活支援センター・ケアマネジャー・相談支援専門員 等</p>